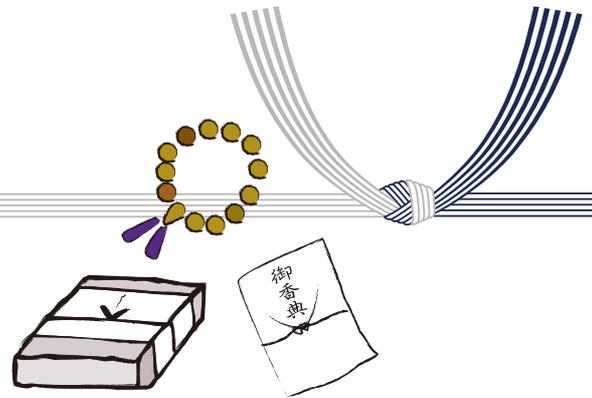


法事・法要での香典

香典とは、故人に対する供養の気持ちを表わすものであり、線香や花の代わりとして法事・法要の際に持参します。



香典を持参する時期

初七日をはじめとし、四十九日までの間、法要は七日ごとにあります。また、その後も、百箇日、一周忌、三回忌と続きます。満四十九年目の五十回忌の法要をもって弔い上げ（満願）となっていますが、昨今では二十七回忌又は三十三回忌をもって切り上げ弔い上げとするのが一般的になってきてます。

香典を持参するのは、主な法要のみで、他は遺族による焼香やお供えが行われます。

法事・法要の表書き

仏教の場合の熨斗の表書きは「御仏前」「御佛前」「御香奠」「御香料」「御供物」などです。「御仏前」という表書きは四十九日以降に使用される表書きで、佛式以外には使用しません。

※通夜・葬儀のときと、法要とではのし袋の表書きが異なりますのでご注意ください。

追善法要	初七日 (しょなぬか)	初七日は、本来は亡くなってから7日目に行われるのですが、最近では遺族や知人の日程に配慮し、葬儀当日に、火葬場から戻ってきてから遺骨を迎える儀式（還骨勤行＝かんこつごんぎょう）と合わせて行われることが多いようです。
	四十九日 (しじゅうくにち)	49日目
追悼法要	初盆・新盆 (はつぼん)	死後の日数とは関係なく初盆の法要は、四十九日を過ぎてから初めてのお盆に行います。四十九日より前にお盆が来た場合には、翌年に初盆の法要を行います。お盆の時期は地域によって異なりますが、旧暦のお盆なら7月。一般的には8月の13日～16日です。
	一周忌 (いっしゅうき)	満1年目
	三回忌 (さんかいき)	満2年目
年忌法要	七回忌 (ななかいき)	満6年目
	この間、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌といった場合に、年忌法要があります。遺族のみで行われます。	
	三十三回忌 (さんじゅうさんかいき)	満32年目

金封

黒白あわじ結び
黄白あわじ結び

のし袋

藍銀結切り
黄白結切り

のし紙

藍銀あわじ結び
藍銀結切り

※蓮（はす）の花の絵がついているものは、佛式専用です。神式では蓮なしを使用します。

●香典袋の書き方は宗教によって異なります。必ず喪家（喪主）の宗教にあった表書きの香典を持参します。